



# カイゼン★ニュース

2017.6.21 編集/発行 都市戦略本部 行財政改革推進部

## 「働き方見直し」について佐々木常夫さんが講演しました

5月下旬に、約700名の管理職を対象に「働き方見直し」の研修をしました。講師の佐々木常夫さんは、東レ株式会社入社後、自閉症の長男を含む3人の子どもの世話と肝臓病とうつ病で入院を繰り返す妻の介護をしながら、仕事で様々な事業改革に取り組み、取締役役に就任された方です。ワーク・ライフ・バランスを実現させた経験を活かし、現在は全国の自治体や企業で講演や研修に精力的に取り組んでいます。



今回、「個人も組織も成長するための働き方見直し」というテーマで、仕事の成果を上げながら、部下を定時に帰らせるための管理職としての役割について、90分にわたり講演をしていただきました。

受講者アンケートで、「最も共感できた内容」として回答が多かった「タイムマネジメントは全ての基本」で、佐々木さんは、タイムマネジメント（生産性向上）は単なるスケジュール管理ではなく、部下が時間内に成果を出せるよう、仕事の「品質基準」を決めて、管理することだとお話されていました。「品質基準」を決めることで、無駄な作業や手戻りは減ります。



佐々木さんは、課長時代に、部下に1週間の仕事の工程表を作成させ、一つひとつの業務にかかる時間や優先順位について議論を繰り返しながら、仕事の品質基準を決めたそうです。また、上司の考えと部下の仕事の摺合せのため、上司に週1回15～30分程度の報連相を実施したそうです。こうした取組により成果を出しながら職場の残業を激減させました。

工程表作成、部下や上司とのコミュニケーション等、どれも決して斬新な方法ではないのですが、きっちりと実践し、「品質基準」にまで落とし込んだところが、佐々木さんの「タイムマネジメント」の極意ではないでしょうか。仕事効率化のノウハウについて沢山、お話しして下さいましたが、講演の最後に佐々木さんは、仕事効率化には、職場でのコミュニケーションと信頼関係が欠かせない、と強調されていました。信頼関係を築くため、定期的に職場でミーティングを実施し、部下が意見を言える場所を提供したそうです。

佐々木さんが徹底的な効率主義だということと同時に、その根底には、家族や部下、周りの人を大切にする気持ち、世の中をより良くしようという気持ちがあることが講演を通して伝わりました。

### ★★★講演受講者のアンケート結果より★★★

Q. あなたの職場では「時間を大切にする働き方」ができていますか。

大いにできている 1.6%、できている 25.3%、どちらとも言えない 46.2%、あまりできていない 21.7%、できていない 4.1%

Q. 「時間を大切にする働き方」を進めるために管理職として取り組んでいることは何ですか（主な意見）  
スケジュール管理の徹底、コミュニケーション、ミーティング、業務の情報共有、職員個々の観察

Q. 「時間を大切にする働き方」のため組織全体ですべきことは何ですか（主な意見）

コミュニケーションの活性化、スクラップ、ムダの洗い出し、仕事の優先順位づけ、適正な人員配置